

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【米沢市で木管五重奏と地元コーラス隊との共演、そして吹奏楽クリニック】

米沢市(山形県)には福島市・伊達市などから、主に「父親が福島県内の職場に通勤できる範囲で、放射能から子供を守るため出来るだけ遠くに住みたい」等の希望もあり、約3,700人の方々が避難されています。また海岸沿いの南相馬市から移られた方もいらっしゃいます。3,700人のおよそ半数が未成年のいる家族で、特に未就学の児童だけで約700人にもなるとのこと。原発事故により避難先を福島県外に求めた皆さんを、音楽で励まそうと日本フィル木管五重奏団が、6月17日米沢市内の体育館でコンサートと、地元高校の吹奏楽部生対象のクリニックを行いました。

メンバーは、この3年の内に日本フィルに入団した坪池泉美(オーボエ)、芳賀史徳(クラリネット)、田吉佑久子(ファゴット)、原川翔太郎(ホルン)というフレッシュな面々と、赤木香菜子(賛助:フルート)の5人。それから、地元のアマチュア・コーラス隊「HAPPY 愛LANDS」のみなさん15人との共演もありました。このコーラス隊は、原発事故により南相馬市・福島市・伊達市などから米沢に避難している、幼児から小中学生・その親たちなどで結成されました。

「わたしたちを受け入れてくださった米沢に感謝の気持ちを込めて、また避難してがんばっている仲間たちへエールを送りたいと、愛をこめて歌っています」とのこと。



(木管五重奏の演奏)

前日から宿泊している市内のホテルを朝9時前に出発し、市内の八幡原体育館で私たちを出迎えてくれたのは、安部米沢市長、米沢市役所健康福祉部の菅野部長、芳村こども課長補佐、そしてコーラスの「HAPPY 愛LANDS」の皆さんと、今回の公演をサポートしていただいた三菱UFJニコスのボランティア・スタッフの方々。

11時開演のため、早速、フラットな床に特別に設けられた舞台上、日本フィルメンバー単独演奏のリハーサル。そして子供8人と、おかあさん7人からなるコーラス隊の皆さんとの合せ、と続きます。コラボレーションは、アンコールを含め4曲、それぞれ歌の出だしのタイミングや、繰り返しの場所等を入念に確認し、特に地元の方の作詞作曲による合唱曲「たからもの」は、作曲された森直子氏のピアノ伴奏も交え、気が付けばもう開場時間が迫っていました。

本番は、カラードレスが華やかな女性3人を含むメンバーが舞台上がり、冒頭に米沢市長から挨拶をいただき、ブランク「ノベレット」で開演です。オーケストラでも個性豊かな音色を響かせる木管楽器のアンサンブルは、体育館の空気を一瞬にして華やかに包み込みました。坪池の進行でイバール「ディベルティメント」や、「花いちもんめ」「浜辺のうた」「村祭り」「ふるさと」といった日本の歌も、時に軽快に時にしっかりと奏され、合間に挟んだ楽器紹介も大好評。「ドレミのうた」が子供の表情を和ませた「サウンド・オブ・ミュージック」メドレーは、いつ聴いても世代を超えて楽しめる名曲です。



(コーラス隊との共演)

第2部はいよいよ「HAPPY 愛LANDS」との共演です。お揃いのTシャツも鮮やかに、元気いっぱいの声と身振りで「世界に一つだけの花」、歌詞が胸にせまる「ピリープ」。震災を機に生まれた、米沢在住の伊藤範作詞・森直子作曲による、明るい曲調ながら歌詞カードを読むと胸こみ上げるものを抑えられない、合唱曲「たからもの」が、精一杯の歌声で披露されました。

アンコールは「見上げてごらん夜の星を」、透き通った子供たちの歌声に会場には、思わず目頭を押さえる姿も…。あっという間の1時間、お客様から心からの大きな拍手が舞台に贈られました。終演後、ロビーでは出演者全員で記念撮影。日本フィルのメンバーとの束の間の交流に、別れを惜

